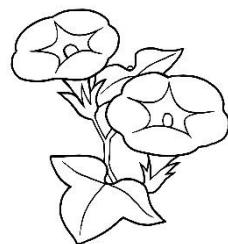


# 図書館だより

宮城県仙台三桜高等学校  
司書版 No.6  
2020.07.30



梅雨が長引きジメジメですね。図書館はエアコンが効いていて快適空間です。涼みながら夏休みに読む本を選びませんか？今回は夏休み前のPR号です。

## 《夏期特別貸出のお知らせ》

7月31日（金）から夏の特別貸出を始めます。

**一人 5冊まで 返却日:8月21日(金)**

※学校の開講式と感想文の提出は19日(水)です。要注意。

読みたかったあの本この本、この機会に大いに利用してください。

小論文や各種レポートを書くためには、まず読書です。文章を書くスキルが磨ける上に、情報が得られます。

期間内なら何度でも貸出・返却を繰り返すことができます。

## 【夏期休業中の休館について】

土日、祝日、8月13日(木)、14日(金)

司書が留守の時に  
本を借りる人は、  
カウンター上の所  
定の用紙に記入し  
てくださいね。

## 校内読書感想文コンクールのお知らせ

1,2年生は全員提出です。3年生は希望者のみ提出となります。

出品部門：自由読書の部、課題読書の部、私の読書法

締め切り：**令和2年8月19日(水)**

字数など：B4版400字詰め原稿用紙1800～2000字

袋とじにして担任に提出

課題図書：『フラミンゴ・ボーイ』『キャパとゲルダ：ふたりの戦場カメラマン』『廉太郎ノオト』

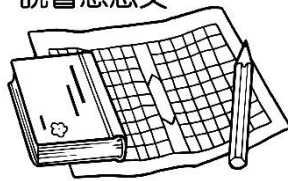
各2冊ずつ三桜図書館にあります。

詳しい要項は「三桜らいぶらりーNo.55」を見てください。

賞状・賞品など：校内コンクール上位入賞者には賞状や賞品が出ます。

学校売店で20枚  
入り140円で販  
売中。友達と分  
けるとお得です。

## 読書感想文



## 参加者募集

興味のある人は司書に尋ねてください。

### 【図書委員・サポーター】

#### 泉図書館YA図書委員会参加者募集

場所：泉区図書館

申込：8月5日（水）9:30～

#### 榴岡図書館選書サポーター募集

場所：榴岡図書館（パルティ内）

申込：5月20日（水）～7月31日（金）

## 【コンクール】

募集要項を見てから始めよう。

### 1 ポップ作品コンクール

主催：宮城県教育委員会

締切：令和2年9月10日（木）

※賞品が期待できるコンクールです。

<https://www.pref.miyagi.jp/shoshiki/syougaku/kodomo-dokusyo.html>

### 2 学校図書館ポップコンテスト

主催：ポプラ社

締切：令和2年11月30日（月）

<https://www.poplar.co.jp/schoolLibrary/pop-contest/>

### 3 ワタシの一行

主催：新潮社

締切：令和2年9月30日（水）

### 4 JICA国際協力中学生・高校性エッセイコンテスト2020

締切：令和2年9月11日（金）

### 5 お母さんの歌全国コンクール

主催：「サカサ和-記念館」のある

岩手・北上

締切：令和2年9月4日（金）

# 読書感想文課題図書

～本選びに悩んだら「課題図書」という手もありだと思う。～



## 「フラミンゴ・ボーイ」 モーパージェ著 小学館

本当なら試験勉強をしなければいけないのに気が乗らない。そこで思い切って僕は自転車で旅に出た。途中の知らない土地で体調不良になり行き倒れに。僕を拾ってくれたのはフラミンゴ・ボーイのロレンゾとロマの女性ケジア。彼らとの出会いが、その後の僕の人生を大きく変えていく。

読んでいると登場人物に感情移入してしまう不思議な物語です。



## 「キャパとゲルダ:ふたりの戦場カメラマン」

アロンソン&ブドーズ著 あすなろ書房

戦場カメラマンのキャパとゲルダ。

1934年、ユダヤ人の二人は、それぞれの母国を離れパリで出会う。貧しくて大変だったけれど、助け合い、スキルを磨き有名になっていく。

キャパとゲルダの足跡を丁寧に追った作品。スピード感あふれるルポルタージュです。(小説ではありません。)



## 「廉太郎/オト」 矢津矢車著 中央公論新社

「荒城の月」や「花」を作曲した瀧(滝)廉太郎の短い生涯を描いた小説。土井晩翠や三浦環も登場します。

独学でバイオリンやオルガンを始め、16歳で東京音楽校(現在の東京芸術大学)に入学するほどの天才音楽家瀧廉太郎。彼は日本人音楽家として3人目の留学生に選ばれライプツィヒ音楽大学に留学したが、5ヶ月で結核を発病し帰国。

23歳で亡くなった瀧の心情や「音」の表現が美しい。幼稚園唱歌「お正月」「鳩ぽっぽ」「雪やこんこん」も彼の作品です。なじみのある曲が多いことに驚かされます。

# 話題の作品



## 「一人称単数」村上春樹(著) 文藝春秋

8つの短篇からなる村上春樹の新刊。

ステイホーム期間中に、『猫を棄てる』が上梓されましたが、小説としては6年ぶりです。

村上春樹が、自分のことを「一人称」で書いているようだけれど・・・でも違う。あっさり読めるけれど、「何かの前を素通りしてしまった」気がして、「もう一度読まなければ」と思ってしまう不思議な読後感があります。

この読後感は「村上春樹」です。

## 「ワイルドサイドをほっつき歩け」 ハマータウンのおっさんたち フレディみかこ(著) 筑摩書房

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』で多様性の中で生きる難しさや豊かさを描いたフレディみかこ。

今回は「フレッシュな若い人々」ではなく、経験を積んだ「くたびれた中年男」の生き方を描いています。

少子高齢化、押し寄せる移民、緊縮財政のため福祉予算削減などの問題が、ブレグジット(イギリスのEU離脱)につながっていた。

シビアなイギリスの中底辺で生きる中年男は、うらぶれているけれど、意外としぶとい。

